

『繻子の靴』

(監督: マノエル・ド・オリヴェイラ / 1985)

学会員有志にて、11月22日(日)有楽町朝日ホールで上映される『繻子の靴』の鑑賞会を行います。また鑑賞に先立ち、21日(土)に概説と導入を行います。

【事前勉強会】

日時: 11月21日(土) 14:00~15:30(予定)

場所: ZOOM(参加者にはURLを通知します)

発表担当: 岡村正太郎(身体表象D4)

※参加希望は岡村(1523c001@gakushuin.ac.jp)まで

【鑑賞会】

日時: 11月22日(日) 12:00~19:50(休憩30分×2)

場所: 有楽町朝日ホール

※事前に各自下記公式フォームより予約のこと

20世紀フランスを代表する詩人・劇作家ポール・クローデル(Paul Claudel, 1868-1955)が、日本滞在期に書き上げた大作戯曲『繻子の靴』(*Le Soulier de satin*, 1919-1924)。そのあまりの長大さから、ジャン＝ルイ・バロー(1943)、アントワーヌ・ヴィテーズ(1987)、オリヴィエ・ピエ(2003)といったごく少数の演出家の手によってしか上演されてこなかった。とはいえ、ナチス占領下のパリで初演を迎えたバロー版、アヴィニョン演劇祭において夜通しで上演されたヴィテーズ版と、本作はその公演ごとにフランス演劇史上の出来事=事件となってきた。オリヴェイラによる本映画作品も7時間弱の大作である。

ときは16世紀、大航海時代。ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、そして日本までをも舞台に、主人公ドン・ロドリッグが抱く世界征服の野望と、彼とドニャ・プルエーズの地上では決して結ばれることのない禁断にして永遠の愛が描かれる。

↓↓↓上映詳細↓↓↓

第21回東京フィルメックス特別上映作品

『繻子の靴』(The Satin Slipper / ポルトガル、フランス / 1985 / 410分 / 監督: マノエル・ド・オリヴェイラ (Manoel de OLIVEIRA))

後援: アンスティチュ・フランセ日本、ポルトガル大使館文化部

【日程】

★11月22日(日)朝日ホール12:00開映←この回で鑑賞会を行います!

11月26日(木)アテネ・フランセ文化センター 13:00開映

11月27日(金)アテネ・フランセ文化センター 13:00開映

11月28日(土)アテネ・フランセ文化センター 13:00開映

【予約】

下記URLチケットフォームより→

<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/01qd9j119cmnj.html>

